

## 4. こまミュージアム創りによる遊び環境と生活文化の創造

高麗の郷エコミュージアム研究会

(埼玉県日高市、飯能市)

### I. 活動の背景と目的

活動の主体は、身近な自然環境の破壊に危機感をもった住民たちが、自分達の地域を、地域全体の自然環境・住環境・生活文化遺産等をそのまま保全し生涯学習の場として整備する「エコミュージアム」にしようとして1992年に発足した「高麗の郷エコミュージアム研究会」である。同研究会では、高麗の郷の名に関連する伝統文化であるこま遊びについて学習した結果、まちづくり活動と連動した「こまミュージアム」を作ろうという動きに至った。

「こまミュージアム」とは、建築としての博物館（ミュージアム）の施設のことではない。地域内の路地や蔵、土間、神社、大樹の下など様々な場所において、独楽の展示・実演などを行うことによって、地域環境と生活遊び文化を学習する活動のことである。

ここでは、「こま」という言葉をキーワードにして、地域づくりを進めようとしている。つまり、全世代が同時に興じ得る「独楽（こま）」遊びを通じて、住民が現在、「高麗（こま）」の郷における生活者であることの自覚を呼び覚まし、地域資源の再発見、世代間交流、地域の活性化を図ることが、活動全体を通じての目的である。今年度の活動の具体的な目標としては、様々な遊びを通じたワークショップとイベントを開催し、「こま」を地域の人たちの交流と地域学習のきっかけとすることがあげられる。

### II. 活動の内容と方法

今年度は、以下に示す「ワークショップ」と、その結果として企画運営される「こま回し大会」を主要な活動とする。

#### 1. ワークショップ（こまによるまちづくりイベント）

路地裏と「こま」（独楽と高麗）について、体験的に学習をするワークショップを連続して開催し、地域の住民が身近な路地空間と伝統的そと遊びを再発見できるきっかけとする。住民自らが、手を動かし、話し合い、講演を聴き、共に遊び、探検や発見を繰り返しながら、地域に対する提案をまとめあげていくものとする。また、各回ワークショップの記録・成果は、地域の商店街のイベント時に展示する。



路地裏のコマ回し教室



こま五輪での大独楽回し

## 2. 路地裏こま回し大会（こまリンピック、こま五輪と呼称）

地域内の路地裏や広場、蔵、土間、神社、大樹の下など様々な場所で、独楽の展示・実演などを行うことで地域環境と生活遊び文化を学習する。

### III. 活動の実施経過

#### 1) こまミュージアムワークショップ（3回）の実施

##### 第1回こまミュージアムワークショップ

日 時：1994年7月17日

会 場：飯能市郷土館学習室、および「こま横町」周辺の路地裏

テーマ：路地裏探検 路地裏を再発見する

##### 第2回こまミュージアムワークショップ

日 時：1994年9月25日

会 場：飯能市郷土館学習室、および周辺地域の丘陵

テーマ：こまと遊びを考える

##### 第3回こまミュージアムワークショップ

日 時：1994年11月12日

会 場：飯能商工会館会議室、および「こま横町」周辺の路地裏

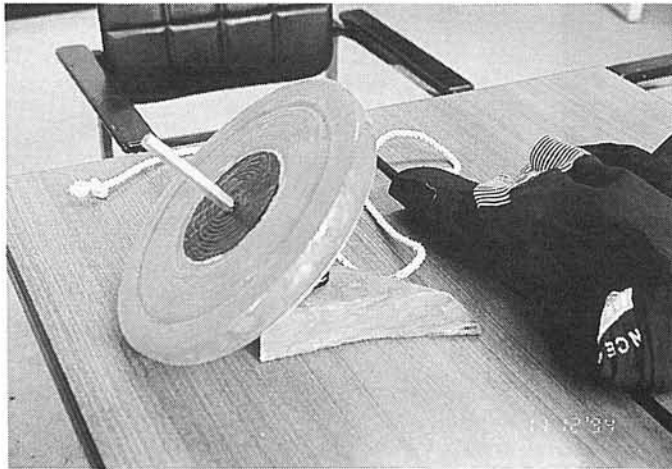
テーマ：「こま五輪」の企画立案

#### 2) こま回し大会の実施

日 時：12月4日（日）

場 所：飯能商工会館 駐車場付近（メイン会場）

時間帯やコーナーを設け、会場と周辺の路地裏で、様々なイベントをおこなった。



手作りのコマ



名人による引っかけ独楽の芸

#### IV. 活動から得られたものと今後の課題

参加者はもとより、地域住民が、それぞれ今まで身近な環境と懐かしい遊び文化を再発見する楽しみを得たように思われる。

ワークショップの効果としては、参加者の感想によると、裸足で歩き地域を探検するなど、ふだん日常生活では不可能な体験が得られ、それを通じて環境を見直すことができた点にある。また今回のワークショップに参加して、改めて路地裏に興味を抱いた人も多かった。

こま回し大会の効果としては、さらに多くの人々の参加が得られ、こまを使ったイベントを通じて、地域の住民に地域の活力を再認識させた点があげられる。これまでは、神社の境内などでおこなわれることが多かったが、今回のように路地裏に接した街中でおこなわれることの重要性が再確認できた。

さらに、今後の課題としては、さらに街を再発見するための学習を、限られた参加者ではなく、もっと一般の住民を交えておこなっていくことが必要である。子どもの参加を促す上で、とくに学校との活動の連携が必要となろう。

また、こまミュージアム設立が現実的に見込まれており、この施設の具体的な運営や、その予定地となる場所の地域性の学習、また、今回展開された路地裏周辺との関係性などが今後の検討事項として挙げられる。